

ミニ黒板を使ってみようと思った理由

わたしは青年海外協力隊としてラオスのサワンナケート県というところに派遣されています。活動内容は、教員養成校で小学校の先生を目指す学生に算数を指導することです。

活動をしていたある日、学生の数字や文字の書き方が気になることがありました。学生によって文字の大きさや形が違っていたのです。中にはノートを縦に置き縦書きで書く学生もいました。(ラオス語は横書きの言語です。)

小学校では、どのような指導をしているのだろう。気になったわたしは小学校の授業を見学したときに、数字や文字の書き方に気を付けて見ることにしました。すると、児童は一生懸命文字を書いています。文字の大きさや書き順がバラバラであるということがわかりました。先生に確認したところ、文字は先生が黒板に書いた文字を写すことで覚えているようでした。そのため、大きさや書き順に個人差があったのです。

このままでも問題がなければいいのです。しかし、外国人だからかもしれませんが、手書きの数字や文字が読めないことがあります。もらった領収書が読めないときは困ってしまいました。

読みやすい数字や文字が書けるように、小学校で書き方指導ができないか。そんな気持ちが活動の中で芽生えていきました。そんなときに、ターナーチョークボードペイントのお話をいただいたのです。

ターナーチョークボードペイントを使ったミニ黒板作り

チョークボードペイントを使えば、板が黒板に変わる。そこから、日本で文字指導に使われているミニ黒板が作れるのではないかと考えました。ミニ黒板は、子どもたちのノートと同じマス目が入った小さな黒板のことで、書かれた文字の大きさや形がわかりやすくなります。さっそく案をまとめてチョークボードペイントの利用のお願いをターナー色彩の平尾様へさせていただきました。すると、快くチョークボードペイントを提供いただくことができました。

ラオスに届いたチョークボードペイントを使ってミニ黒板作りを開始しました。最初は木の板を探しました。けれども、ちょうどよい大きさの板を見つけることはできませんでした。そこで、教員養成校の学生もよく使っているプラスチックボードに目を付けました。現地ですぐに手に入れることができ、適度な強度があり加工も簡単にできる。何より安価であることが決め手でした。

試作品を作り、学生の指導で使ってみました。学生は初めての道具でしたが使い方がわかると、丁寧に数字を書くことができました。

次は、小学生への指導です。



小学生への数字指導

小学校での数字指導には、ミニ黒板を複数作り、その他の教材もそろえてから臨みました。学年は1年生です。

最初に、数字あてゲームをしました。ストローで作った花が何本あるかを答えるという簡単なものです。ゲームの狙いは、普段と同じ数字を書いてもらうことです。子どもたちは丁寧に数字を書いたことで、多くが読みやすい文字でした。1年生の授業が半年ほど終わった段階だったので多くの子どもたちは数字をしっかりと描くことができていました。しかし、中には数字が反転している子もいました。

数字を確認した後でいよいよミニ黒板を使った指導です。始めに、数字を書いたミニ黒板を見せました。その後、子どもたちにも書いてもらいました。最初は、小さく書くなどミニ黒板への書き方に戸惑いがみられました。けれども、慣れてくると大きく読みやすい数字を意識して書くことができるようになりました。

指導後に、プリントで丁寧に数字を書く練習をしました。意識して丁寧な数字を書くことができている児童がたくさんいました。



今後も小学校で使用してもらおうミニ黒板

指導後、ミニ黒板を1年生の先生にこれからも使用したいか聞きました。すると「ぜひ使いたい。」と、言ってくれました。そのため、作ったミニ黒板を小学校へ残していくことにしました。

使うのは年度初めの9月、10月がよいこと。一度だけでなく何度も繰り返して練習に使うとだんだんと丁寧に数字や文字を書けるようになることを合わせて伝えました。ラオス語の指導にも使えるので、ぜひ使ってみてほしいです。

今回わたしは数字、文字指導の手段の一つとしてミニ黒板の使用を提案することができました。子どもたちや先生、学生の反応もよく、これからも使っていただければありがたいです。

指導にあたり、ターナーチョークボードペイントを提供していただいたターナー色彩のみなさんに厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

